

令和7年度第2回 番組審議会議事録

令和7年9月19日

玉島テレビ放送株式会社

1. 開催年月日 令和7年9月19日(金)
19時～20時40分
2. 開催場所 玉島テレビ放送株式会社役員室

3. 委員の参加

委員総数：7名 参加：6名

出席委員の氏名

委員	井上 全悠
委員	片山 奈美
委員	河原 素
委員	神崎 恵子
委員	北原 映子
委員	中田 裕一

玉島テレビ放送株式会社側の出席者

専務取締役	猪木 直樹
制作部部长	二宮 丈晴
制作部課長	佐藤 慎一
技術部課長	滝澤 伯龍
制作部主任	松本 雅史
制作部	小山 紘明
制作部	川村 密善

4. 議題

【諮問についての答申審議】

「地域貢献を通じて、玉島・船穂の魅力を再発見！」に沿った番組作りとはどうあるべきか。

<委員意見>

- 地域貢献という言葉は難しいが、玉島・船穂の魅力発信という観点で、テレビはアピールするのに絶好の媒体。活動していることを発信する。備南土地改良区の取材等、情報をもらう窓口を広げたらどうか。

- テレビ離れは避けられないうえで、番組を周知してもらう必要がある。たまテレを知ってもらわないといけない。スマホで見られることが大事。テレビとSNSを同じくらい力を入れる必要があるのではないか。Instagramのショート動画で番組の一部を切り抜き、興味を持ってもらうのはどうか。

- たまテレとして地域行事など、たまテレを見れば全部わかるような番組作りをしてほしい。地域密着だからこそできる番組作りを。発信方法については世代別に刺さる発信方法がそれぞれある。試行錯誤していろいろ工夫してみてほしい。

- より多くの方に見てもらう為の情報提供の必要性を感じる。番組には玉島のことが詰まっていると感ずることが出来て、地域貢献をしているとは思いますが、テレビ離れが進む中、いかに見てもらうかに尽きる。多くの人にたまテレを周知してもらおう。普及しているスマホを用いた宣伝・情報提供が必要では。SNSを活用し、若者世代を取り入れてほしい。話題が話題を生む循環を形成してほしい。

- テレビ離れは止まらないなか、アプリの有料会員になるにはお金を払うだけのコンテンツが必要。いつ何の番組をやっているかを発信。番組の定着化が必要。物産展、マルシェ、運動会などニュースで放送されたあとの見逃し対策。玉島は人が魅力。知っている人や知っている場所をより発信し、視聴者を取り込む。

- 地域貢献において、各局テレビにおいて各地区のイベントに参加し、そこでの体験談を交え、馴染みやすい、親近感がわく番組にしてはどうか。SNSでの映えスポット紹介やお店紹介をリレーでつなぐコンテンツもどうか。シニア世代に刺さるコンテンツは昔の番組やクイズか。新人が番組を作ること、今までにない目線の番組ができるのかも。今昔を取り上げるとシニア世代に刺さるかも？

<たまテレにお願いしたいこと>

- 若い人たちへ向けてのイベントを収録するなどして、SNSで発信して反応をみては？ スマホを見ている、使っている人へ向けてのアクションを起こしてみてもどうだろうか。
- SNSで番組の宣伝を積極的にするという意見に対しては重要だと思う。それが審議委員の思う一番のところだと思う。

<SNSの具体的な活用方法>

- 何時から何の番組をするかという告知。
- たまテレアプリはあるのに、加入していないと見ることができない。無料視聴のチャンス。
- ショート動画という短いコンテンツ、その先が気になるという興味の持ち方。
- インスタ、TikTokという若い人向けのSNS発信を。
- そこからHPにリンクで飛ばすなど。
- SNS専用社員を雇うのではなく、依頼するのも手か。
- 番組の宣伝だけでなく、目的無くインスタを見ているときに何となく見るコンテンツもあり。無意識に見て、そこから気になり入っていくパターンもあるかと思う。たまテレを目的に見るのではなく、何の目的もなく見ている人を取り込めるといい。

<飲食店紹介、活動団体紹介番組について>

- 紹介した店にたまテレを紹介してもらうのはどうか。つながる、という意味では強み。

○今玉島にお店が結構増えてきている。知っているようで知らない店・イベントもある。街頭インタビューでその人に関する場所・関係団体に続けて取材するのもいい。

○そこでもいつどこで放送するといったアピールを欠かさない。

○名場面集をショートで流すだけでも見てもらえるかも。

5. 答申予定

日時：10月17日16時より

場所：玉島テレビ放送役員室

※10月27日追記

<玉島テレビ放送株式会社 答申に対するご回答>

このたびは、貴重なご意見を賜り誠にありがとうございます。

審議会の皆さまからいただいたご提言につきましては、すぐに対応が難しいものもございますが、半年後を目途に改善・実現に向けて検討を進めてまいります。

特に、SNSなどを活用した情報発信には力を入れていきたいと考えており、来年1月から本格的に取り組みを強化してまいります。

また、シニア世代に向けた番組づくりについても、今後の課題として検討を進めてまいります。

今後とも、いただいたご意見を真摯に受け止め、スタッフ一同で地域に寄り添った番組づくりに努めてまいります。

引き続き、玉島テレビ放送の番組を楽しみにしていただければ幸いです。

令和7年10月27日

玉島テレビ放送株式会社